

# アスベスト被害の根絶をめざす 京都の会ニュース

2013年11月6日 第3号  
アスベスト京都の会 発行  
事務局：TEL075 (662) 5321  
(京建労本部気付)

## 結成後初めてのシンポジウムに49人が参加 急務！「ストックアスベスト」対策

5月17日に120人の参加で結成された「京都の会」が、記念すべき第1回目のシンポジウム「広がるアスベスト被害と対策」を10月19日に中京区の京都アスニーで開催し、市民も含め49人が参加しました。

シンポジウムでは最初に、「京都の会」副会長の吉岡徹・京都総評議長が開会あいさつ。続いて、「京都の会」会長で立命館大学政策科学部の石原一彦教授(写真④)が、「アスベスト健康被害と今後の課題」をテーマに基調講演をおこないました。

石原教授は、アスベストが「原料の採取から廃棄」までの全過程で労働災害や公害などを引き起こすという従来の公害問題になかった複雑な事態を発生させること、アスベストは製造を止めても建築物や廃棄物のストックとしてアスベストがある限り被害が増え続ける恐れがあることを指摘し、このことから、アスベスト問題は「複合型ストック公害」と呼ばれていることを紹介しました。

また、国によるアスベストが使用されている建築物と、それに伴う健康被害の実態調査が不十分であり、今後の解体・廃棄時の対策の徹底が必要であることを強調。2011年の東日本大震災で、建物倒壊時にアスベストがむき出し状態になった写真を紹介しながら、自治体の地域防災計画に震災時のアスベスト対策が反映されていない実態を指摘し、今後必要なアスベスト対策の一つに、国や行政がアスベスト使用の建築物の把握を含めた「ストックアスベスト」対策を促進することを挙げました。

## アスベスト被害の告発とアスベスト疾患の症状・治療

パネルディスカッションでは、京都民医連中央病院副院長の津島久孝医師、全京都建築労働組合の酒井書記長、日本板硝子共闘労働組合の神田章一さん、「京都の会」事務局の新谷一男さんの4人が報告。立命館大学政策科学部の森裕之教授がコーディネーターをつとめました。

### 【アスベスト関連疾患の症状や診断と治療】

津島氏は、職業歴や居住歴と胸膜プラークでアスベストばく露があるかどうか見分け、症状を見落とさずに早期発見・治療が重要であると報告。



### 【建設職人の被害拡大と掘り起こし】

酒井氏は、アスベストによる健康被害が建設業に集中している背景を説明。また、自身が体験した掘り起こし活動のなかで、肺ガンが「タバコが原因」、アスベスト肺が「原因不明の間質性肺炎」など多くの医療機関でアスベスト関連疾患が見逃されている実態を紹介し、建設業のみならず製造業でも多くの被害が埋もれていることを指摘しました。

### 【教員のアスベスト被害の取り組み】

新谷氏は、滋賀県の教職員がアスベストによる健康被害で初めて公務災害に認定された事例を紹介。学校現場はコンビニと同じように身近にあり、今後、耐震化や老朽化で解体が進むなか、学校のアスベスト使用について、教育委員会に情報公開していく運動が必要だと述べました。

### 【工場労働者のアスベスト被害】

神田氏は、ガラス製造工場の労働者が退職後に中皮腫を発症したことから、組合として学習会やアスベスト使用の実態調査をおこない、工場の建物、コンベアー、ボイラーなど、いたるところにアスベストが使用されていることが判明し、会社と被害補償の協定を結んだことが報告されました。



【参加者・団体】総評、職対連、いの健、京建労、医労連、民医労、民医連、全国一般、国公、板硝子、中金労組、けいわん、JSA 大阪・弁護団・記者、一般、講師

各氏の報告後、フロアから発言がありました。アスベストが原因の中皮腫で亡くなった建設労働者の遺族から発症原因について質問があり、津島医師が「矢のようなアスベスト繊維が肺の胸膜に突き刺さることで年月を経て発症する。発症の原因は、明らかになっていないが、アスベスト繊維が鉄を引き付けて放射能を出すという説もあり、現在研究中になっている」と回答。ほかにも、日本とアメリカのアスベスト訴訟、工場におけるアスベスト被害の補償や機械等に使用されるアスベストの撤去、石綿工場跡地の

周辺住民の被害などについて質問がありました。

最後に、コーディネーターの森教授(写真⑥)が、アスベストによる健康被害者への補償対策として、現在の救済制度から補償制度への転換をおこなうと同時に、医師の育成や自治体の専門職員の育成などアスベスト対策全体の政策的財源(石綿総合対策基金構想)としても位置づける必要があると今後の課題を提起しました。



### 参加者の感想

- 患者の掘り起こし、アスベストの危険性、時限爆弾のこと、多くのことを知らせなければと思いました。
- アスベスト問題が網羅されていました。なかなか、身近に感じていない方も多いと思いますが、地域社会で暮らしている以上、誰もがそのリスクを抱えているということが、よく分かりました。
- 何も知らない住民たちは被災が進んでいると思われました。ここへの対策が必要であると思います。それに関わる森先生の話は理解を深めるもので良かったです。
- 板硝子工場の実態は驚きであった。
- 内容的には大変充実したもので、企画としては大成功でした。私自身もアスベスト問題が改めて重大な課題であることを再認識しました。この勢いで、取り組みを盛り上げていきたいですね。